高等学校における主体的な学び

学籍番号　209301
氏　　名　新居匠
主指導教員　大河内浩人

1.A高等学校の実践と課題

本研究では、筆者の大学院での実習校にて実践を行った。実践課題研究として、実習校の概要から実践、課題を把握する。

A高等学校は、大阪府が設立しているエンパワメントスクールである。教育目標は、生活的自立・社会的自立・職業的自立の３つの自立であり、地域社会で活躍する社会人を育てることを教育目標としている。A高等学校があるA区では、問題を多く抱えている地域であり、様々な問題の中で活躍する社会人を育てるA高等学校の役割は非常に大きい。

「エンパワメント」とは、様々な分野において各々の意味で用いられてきた。本稿では森田の定義を例に挙げ、内的抑圧・外的抑圧からの解放と捉え、A高校の「エンパワメント教育」を考えていくこととした。

A高校の特徴的な実践に「反貧困学習」と「産業社会と人間」の授業がある。「産業社会と人間」の授業では、LGBTや外国人差別などのテーマを扱い、A高校に在籍している生徒が経験していると考えられる授業を行っていた。授業方法に関しても、学校の中で実際に起きた場合を考えるなど、非常に実践的な授業を行っていた。この授業では、生徒たちの学校内における外的抑圧からの解放を図っていると考えることが出来る。

「反貧困学習」においては、生徒一人一人が自身の生活と社旗状況を重ね合わせながら省察するとともに、貧困を生み出している社旗構造、貧困者の権利や社会保障を学びながら、最終的には現実の単なる否認ではなく、貧困を生みださない「新たな社会」を創造し、その実現のために働きかけていく主体を形成することを目標としている。この授業では、「貧困」における内的抑圧からの解放と、社会の改革といった外的抑圧からの解放につながっていく。

A高校の課題として、筆者が感じたことは「学習」面における生徒たちのつまずきと、主体的な学びへの手立てが十分でないことである。そこで、学習面における生徒の内的抑圧からの解放を図るとともに、主体的な学びへの手立てを講じることを目標に自己調整学習の実践を行うこととした。

2.自己調整学習

本研究では、主体的な学びへの手立てとして「自己調整学習」を行うこととした。自己調整学習の実践を行うにあたり、B.J.Zimmerman が提唱したモデルの一つである循環的段階モデルを参考に行った。

循環的段階モデルでは、予見段階として学習を行う前に学習の目標と目標達成に向けた取り組みを考え、遂行段階として実際に遂行を行いながら目標達成を目指し、最後に自己内省段階として目標達成したかを調べ、できなかった場合は原因を考え次の学習につなげていく。

今回は、大学院における筆者の実習で行った実習校で研究をおこない、高校２年生の数学の

授業を担当させていただいたため、その授業の中で実践を行った。学習の目標を単元間のつまずきの解消に定め、生徒一人一人が授業の中での自身の課題を把握し、改善に努めるように、課題と解決策を言語化することで促した。また、授業の中で学習を行うことが出来るように自習時間を設け、課題解決への時間とした。その後、小テストを行い、自身の学習を振り返ることが出来るようにした。

また、課題と解決策を言語化する振り返り活動や実際の遂行を「主体的に学習に取り組む態度」の評価として行うこととした。その評価を生徒たちに伝え、以前の「関心・意欲・態度」の評価からの変化が生徒たちにどのような影響を与えるかも研究することとした。そして、すべての実践修了後、アンケートを行い、生徒たちに与えた影響について考察した。

3 まとめ

自己調整学習の実践の結果としては、クラス全体は筆者が望んだ結果とはならなかった。望まない結果の原因としては、筆者の授業力の不足、振り返り活動を外発的に動機づけすることで行うことが目的となってしまったこと、実践の効果を確認するための小テストの難易度が高すぎてしまったことなどが挙げられた。しかし、個々の相関から考察すると、自己調整学習の段階を適切に行った生徒たちには、意味のある結果となっていた。よって、筆者の授業力の向上や、振り返り活動の意義を生徒たちに伝え内発的に行うように促す手立てを講じることや小テストを適切に作成することなどの改善を行うことで非常に意味のある実践になる可能性を感じた。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、評価の変化の難しさを感じた。「関心・意欲・態度」の評価に様々な課題はあるが、同時に生徒たちが授業に向かう動機づけになっている部分も多分にある。本質的には誤りである場合でも、各学校が生徒たちの実情を深く知り、現場で応用をきかせる必要を感じた。

また、今後に向けてとして、自己調整学習の興味・自己調整スキルの面からも実践を考える。これらの視点を持つことで今後の自己調整学習の実践がより深いものになっていき、様々な教育現場において応用されていくことを期待している。